1

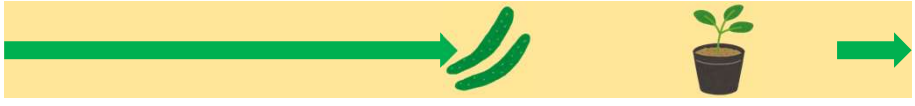
阿南きゅうり栽培について

・徳島県南東部
・温暖多雨な気候、
冬期の日照量が多い

・ハウス栽培が盛ん
（きゅうり、いちご、
すだちなど）

阿南きゅうり部会
48名　7.1ha

1月　2月　3月　4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　12月



2

2

背景

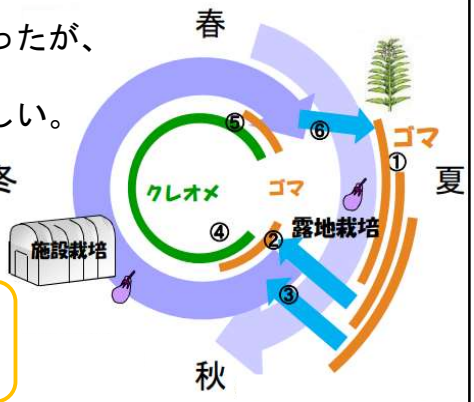
阿南地域のきゅうり栽培では・・・

・アザミウマ類の発生増加により、黄化えそ病が発生し、
収量や品質に影響が出ている。

・薬剤防除回数の増加により、薬剤抵抗性が発達している。

タバコカスミカメの導入が始まったが、
件数は伸び悩む。
→収穫終了後の天敵温存が難しい。

・ゴマ・クレオメの栽培
・温存ハウスの整備



安定供給可能な
天敵カブリダニ類の導入を検討

3

3

阿南地域における現状

天敵を導入することで
使える薬剤が限られてしまう。

コストが高いし、効果があるかわからない。

グリーンな栽培体系への転換サポート事業を活用し、
天敵カブリダニ類を活用したIPM技術の導入

4

4

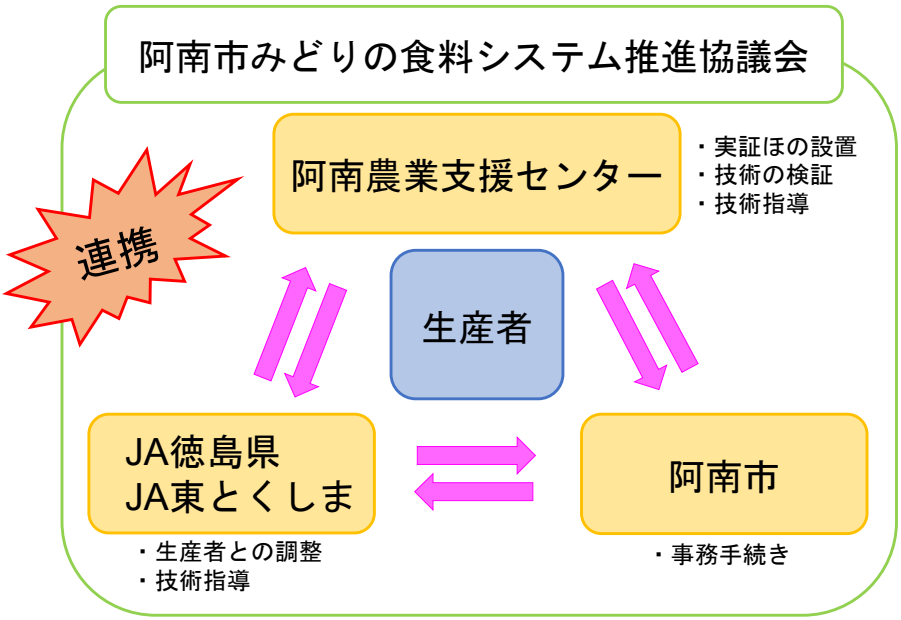
IPM技術導入の取組概要

①天敵の導入に向けた体制づくり
②実証ほの展示と効果の検証
③IPM技術の定着推進

5

5

①天敵の導入に向けた体制づくり



6

6

①天敵の導入に向けた体制づくり

●推進方針

IPM技術の導入には、個人より地域単位で普及を推進したい。

・個人（点）の場合、
　導入農家の栽培状態で、効果が左右される可能性がある。

・地域単位（面）の場合、
　その地域で複数の事例を同時検証できる。

面で同時期に導入することで、
IPM技術の定着を加速化

7

①天敵の導入に向けた体制づくり

●導入までの活動

関係機関で推進方針を検討

講習会で天敵の効果等の説明

生産者と一緒に天敵放飼

8

②実証ほの展示と効果の検証

●実証ほ概要

項目	実証区①	実証区②	実証区③	慣行区
穂木	G-フラッシュ	S-30	瑞穂	G-フラッシュ
台木	ぞっこん	ビックアイ	ハイパー昇竜	ぞっこん
栽培方法	つる下ろし栽培			
栽培面積	16a	10a	20a	10a
定植日	10月17日	10月29日	10月20日	10月25日
定植本数	1,600本	1,200本	2,000本	1,100本
天敵資材	リモスワセット （アリスタライフサイエンス）	スワルスキー	リモスワセット	ー
天敵放飼日	2月15日	2月28日	2月28日	ー
放飼量	スワルスキー 50.000頭 リモニカス 25.000頭	スワルスキー 50,000頭	スワルスキー 50.000頭 リモニカス 25.000頭	ー

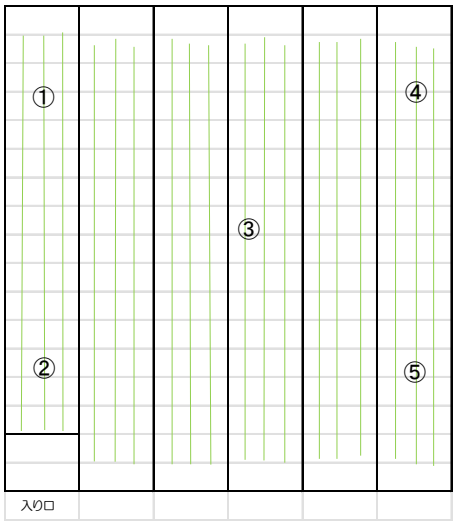
9

9

②実証ほの展示と効果の検証

●調査方法

各ハウスごとに任意に５側枝選定し、上位５葉を調査した。

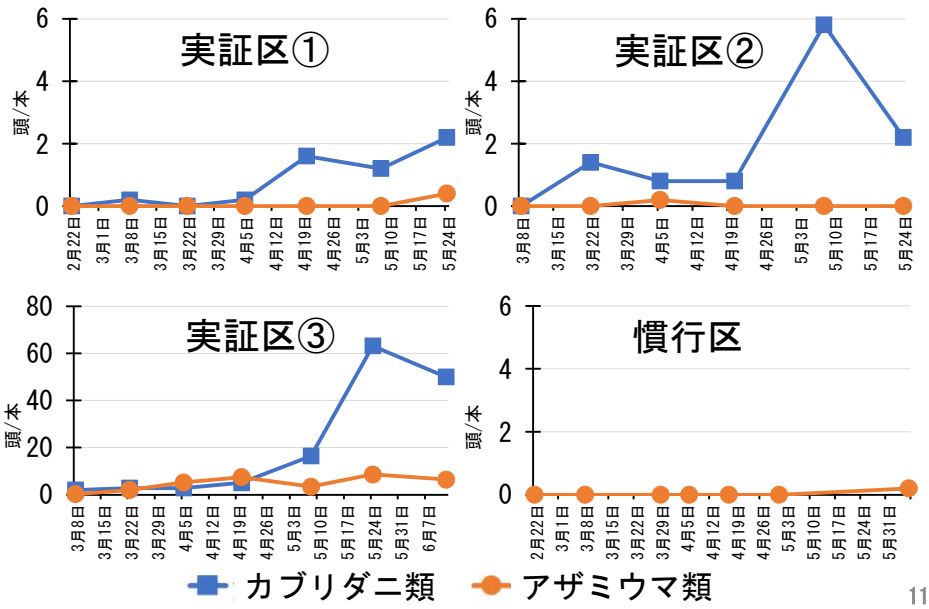


10

10

②実証ほの展示と効果の検証

●調査結果



11

11

②実証ほの展示と効果の検証

●調査結果

実証区①、②、③より、
・カブリダニ類の頭数は順調に増加

実証区③では、
一時期アザミウマ類が発生したが、
それに伴ってカブリダニ類の頭数が増加
　→アザミウマ類を抑制

慣行区は、
薬剤防除によりアザミウマ類の発生抑制

アザミウマ類に対して、薬剤防除と同程度の効果あり

12

12

②実証ほの展示と効果の検証

●殺虫剤使用状況調査（定植～天敵放飼前）

月	実証区①	慣行区
10	アファーム乳剤（28日）	
11	コテツフロアブル、 プレバソンフロアブル5（9日） アドマイヤー水和剤（25日）	アファーム乳剤（6日） プレバソンフロアブル5、 モベントフロアブル（19日） アドマイヤー水和剤（27日）
12	スタークル顆粒水溶剤（7日） コテツフロアブル（22日）	スタークル顆粒水溶剤（12日） コテツフロアブル（24日）
1	アファーム乳剤（6日） コテツフロアブル（24日）	アファーム乳剤（6日） スタークル顆粒水和剤（20日）
2	プレオフロアブル（5日）	アドマイヤー水和剤（9日）
散布回数	8回	8回

ゼロ放飼のための防除

殺虫剤散布回数は同じ

13

②実証ほの展示と効果の検証

●殺虫剤使用状況調査（天敵放飼後～収穫終了）

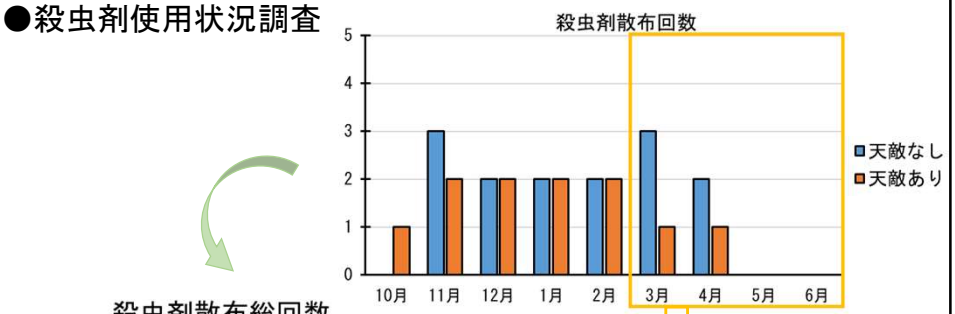
月	実証区①	慣行区
2	**天敵放飼（15日）** ベストガード水溶剤（22日）	ベストガード水溶剤（26日）
3	プレオフロアブル（16日）	アドマイヤー水和剤（15日） コテツフロアブル（19日） グレーシア乳剤（28日）
4	ベネビアOD（9日）	ベストガード水溶剤（18日） コテツフロアブル（27日）
散布回数	3回	6回

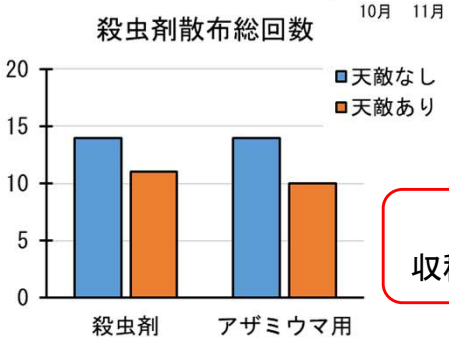
殺虫剤散布回数が**半減**

14

②実証ほの展示と効果の検証

●殺虫剤使用状況調査





カブリダニ放飼後、
殺虫剤の散布回数が減少

薬剤防除の時間を
収穫作業等にあてることができる

15

15

②実証ほの展示と効果の検証

●害虫防除にかかる薬剤コスト調査

阿南農業支援センター調べ

	薬剤数		害虫防除にかかる薬剤経費(円/10a)		合計(円/10a)
	殺虫剤	天敵	殺虫剤	天敵	
実証区①	11	1	30, 648	46, 250	76, 898
慣行区	14	–	60, 338	–	60, 338

天敵の導入で、殺虫剤の使用回数が減少し、
殺虫剤の経費は約半分に抑えることができた

16

16

②実証ほの展示と効果の検証

●まとめ

・実証区では、天敵カブリダニ類の増加により、
アザミウマ類の増加を抑えることができた。

・天敵放飼後、薬剤散布回数を
慣行区の半分に減らすことができた。

→薬剤防除作業の省力化
→害虫防除コストの削減

17

生産者の声

例年は4月頃から果実にアザミウマ類の被害があったが、今年はほとんど被害がなく、品質も維持できた。

薬剤制限はかかるが、
防除回数が減ったので、来年も導入したい。

株ごとに放飼する作業が大変だったので、
コストが同程度なら２回放飼も考えようかな。

18

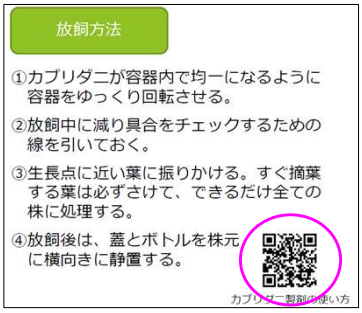
③IPM技術の定着推進

●IPM技術の普及

IPM技術普及マニュアル作成

・天敵放飼の方法
・薬剤ローテーションの一例

随時改訂予定



講習会にて
実証結果の報告

天敵導入した生産者へ
聞き取り調査

QRコードの活用

20

20

今後の取組

●阿南地域における最適な放飼方法の検討
●環境に優しい防除技術の拡大

IPM技術を活用した
防除体系の確立と普及を目指す

21

21